

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



金浦分教会

(5月11日 撮影)

立教 179年
5月号

本部婦人会総会開催

詰所で「支部の集い」行う

婦人会



支部の集いに参集した婦人会員たち

去る4月19日、天理教婦人会第98回総会が午前9時30分より本部中庭に於いて開催され、あたたかい日さしの下、大勢の帰参者でうめつくされた。式典の中で婦人会長様は、教祖百三十年祭活動を振り返り、「年祭活動で培った力を次の動きに生かして、さらなる一步を踏み出すことが肝心」と強



自身の年祭活動について話す山野さん

調され、「年祭活動が終わっても、親神様・教祖の御恩に報いたいと念じ心がけることが信仰する者の日常でなければならぬ。それには、まず自身自身が教祖のひながたを素直にたどり、明るく勇んで御恩報じの道を歩ませて頂きましょう」と話された。午後は詰所に会場を移し、12時半より2時まで「支部のつどい」が行われた。教祖百三十年祭・三年千日を精一杯お通り下さった様々な立場から、次の4人の会員①山野ちさとさん(上下委)②梅下良子さん(東悠委)③杉原美津枝さん(明石市委)④掛谷富子さん(坪生委)より

「私の年祭活動」と題して感話を聞かせて頂いた。その後、支部長様より婦人会員としての自覚と活動方針に基づく通り方について、細かくお話し下さい、閉会した。参加者は235人でした。(婦人会記録係 上原 順子)

よふぼく勉強会開催 テーマは「身近なひのきしん」

4月月次祭後

育成部

育成部(吉岡壽部長)では、4月21日

祭典終了後、午後1時15分から「身近なひのきしん」をテーマに笹尾一美葦陽分教会長夫人を講師に「よふぼく勉強会」を開催、約30人が参加した。

先生は、初めに教典に掲載されているひのきしんの定義を述べられ、その後、ご自身の子育てと介護について、結婚当時から日常を振り返りお話し下された。子育てについては、子供はご先祖様の生まれ変わりのため、特に教会生活の中で徳を減らさない様一貫した姿勢で向き合い、お供えについての親子の現実的なやり取りなど、聞き入る内容の中にも笑いを交えてお話し下された。そして主人である会長の両親の介護の最中でお産が間近に迫っている時でも、教会のご用を明るく前向きにこなし、間もなくしての安産に、をびや許しの不思議を改めて実感し、いつも優しい両親に対して、介護中、気を使わせてはいけなないと、日頃から心掛けて冗談を言いながらの毎日を過ごさせて頂いたと話された。最後に自身も教会で生まれ育ち、親々から神様の話しを聞かせて頂いていたお陰で、子育ても介護も喜びの心を持って通る事ができたと締めくくり、質疑に答えられて午後2時前に終了した。



ユーモアを交えて話される笹尾姉



焼肉とボーリングで... V(^o^)^

おちば管内 学生親睦会開催

4・24 詰所

学生担当委員会

笠岡学生担当委員会(山野弘実委員長)は、4月24日、笠岡詰所で「おちば管内学生親睦会」を開催し、高校生、大学生、学生担当委員など15人(うち学生10人)が参加した。

親睦会は、まず、大教会長様のお話があり、学生たちは真剣に耳を傾けていた。その後は、焼肉を囲んで学生同士又、学生担当委員との和やかな時間

を過ごした。午後からは、ボーリングを楽しみ、同じ笠岡に繋がる学生同士の親睦を深めた。
また、この日学生たちは、熊本地震で被災された方々に向けて、メッセージカードの書き込みも行った。

熊本地震に向けて

救援ひのきしん 出動

災害救援委員会

笠岡大教会災害救援委員会は、4月27、28日、熊本地震の被災地に5人で出動した。(上原志郎、上原浩、上原繁次、中村剛史、丸山隼人)

4月14日の地震発生の数日後に開設された、熊本大教会を拠点とする「天理教熊本地震支援情報センター」からの情報を基に、21日より大教会で救援物資を募集。27日に熊本大教会(熊本市北区)に集まった物資を運んだ。集まった物資は、真空パックのご飯、缶詰、野菜、お菓子、飲料、紙コップ、紙皿、ウェットティッシュ等。部内各教会より多く真実が寄せられた。
一行は、27日早朝に笠岡を出発。心配された渋滞もなく、7時間程で熊本



部内各教会より寄せられた救援物資



「生野菜」の要望に応じてサラダ作り

も見られた。

時折、余震が起こる中での活動だったが、笠岡からの物資が避難所からの要望にタイミング良く合う事が多く、現地スタッフ、避難所スタッフに喜ばれた2日間となった。

(陶山分教会長 上原繁次)

大教会に到着した。到着後、積んできた生野菜が避難所で必要との情報が、タイミング良く入り、早速現地スタッフと共にサラダを作り熊本市内の避難所(託麻西小学校)に届ける事ができた。また、その他の物資は、益城町の避難所(広安西小学校)に届けた。

翌28日は、同じく広安西小学校に物資を届けた。その際、笠岡の小学生や学生が書いた、被災地に向けたメッセージ付きのハンカチを、現地の先生に手渡すと、そのお礼に現地の小学生から「ありがとう。頑張ります。」などと書いたリボンを頂くといった一幕

熊本へ行き、たくさんの方に驚かされた。

ペしやんこになった住宅、波打った地面、土砂が流れ、むき出しになった山肌――。

現地で見たものや聞いた話は全て深

談話室



核 心

稲富士分教会 須毛田 英 尋

胃という文字は田と月から成る。月辺の月とは柔らかい肉という意味で、人体の各名称に用いられている。そこが固くなるのは良くない。例えば癌という字は疔と喙とからなる。喙は一字でいわおと読み固いという意味で固くなる病いということ。語源がうなづける。また喙は品物が山ほどあると読め、昔からぜいたく病、皇帝病と呼ばれていた。田は口と十から成り、口で十分かんで胃に送る様にと胃は言っている。その効能は万病の予防になる。よって早喰い大喰いは禁物である。食物に大恩を感じればそれはなくなる。思という文字がある。それは心を十分使い、自分の心も良く噛むと読めないか。いくら多くの事を見たり聞いたところから多くを十分にしやくしない事には、正しい思いに到達しないのではないだろうか。その積み重ねがその人の人格を作り上げていく。思いの至らなさか

ら人との不和や物事がうまくいかず不幸にみまわれる事になるのではないだろうか。心がぜいたくでも心が貧しくても、そこからほこりの心が生じ、自らも苦しむ原因となる。苦しむのは頭、即ち脳であり、裏を返せば、人の頭に立つ人は様々な苦しみを知らなければならぬ。17世紀のフランスの哲学者デカルトは「我思う故に我あり」との思いに達した。自己の身体も身の周りの物質も、自分が築いた地位、財産も全て自分のものではなく、自分とは自分の心だけが自分であり、心から自分は何を思っているかが自分であると。「心一つが我がの理」と一致する。進歩とは歩んで進むという意味であるのに、走って進む現代社会に生きる私たちは、多く自分の心を見つめる事を怠り、その結果沢山の不幸や、とんでもない事を引き起こす人もいる。天理教教典第一章「おやさま」に、おふでさきが記述される。「人は耳に聴くだけでは、とかく忘れがちになり易い人々の上を思い……」との事からおふでさきに記しておいて親神の思いを繰り返し繰り返ししあんさせる様にある。おふでさきはただ読むために読むのではなく繰り返し繰り返し読ませてもらった

めに拝読させて頂くものである。さて親の思いは成人を急ぐ模様です。成人とはなんぞや。それはつきつめれば人のために自分が損ができる親心になれる事である。人のために苦勞を喜べる道。厚情でなければ無理である。お金、時間、労力を人のために損をする。見返りを求めず。その心を親神様は待ちわびておられる。なぜなら親神様のなさりたい事はその損を得に勘定替え、損得勘定神がすると申される由縁である。それ知らず人間は自分の損得勘定に走るから神のざねん通り人間は窮状に立たされるのである。それが思案できた暁には大病もなくなり、真の平和世界が訪れることになるだろう。道の子はこぞって損の道を歩む先導者となり親神様の待ちに待った損得勘定をして頂ける様、働かせて頂く神人和楽の陽気世お道の核心である。

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後 (800字~1200字)

題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は一句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 笠岡大教会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一列子供かわいいの親心一杯にご守護お連れ通り下され誠に有難うございます 分けても今は温みのお陰で桜からツツジへと移り変わり 目にも鮮やかな季節をお与え下さっておりますことは有難い極みでございます 私共は親心のほどに御礼申し上げるべく 日々は朝に夕におつとめを勤めると共に たすけ一条のご用の上に努め励まして頂いております 又去る十八日は教祖二百十八回目のお誕生日 加えて十九日は第九十八回婦人会総会に当たり 誘い合わせておちば帰りをさせて頂き共に喜ばせて頂きました。

その中にも今日の吉日は 四月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 同じ思いに伏し拝み 尚も変わらぬ親心にお縋りする皆の真実の状をご覧下さいまして 親神様もお勇み下さいませようお願い申し上げます

さて今月二十九日は全教一斉ひのきしんデーでございます 日頃日の寄進はさせて頂いておりますがこの日道に繋がる皆が心を一つに揃えてひのきしんに励ませて頂きたいと思っております とりわけ屋外でのひのきしんが多く晴天のご守護を賜りますようお願い申し上げます 又来月は巡教月に当たりますので直轄教会へ巡教させて頂きます おつとめとおさづけ取り次ぎの確認をさせて頂くと共に 道の後継者育成の上により一層力を注いでいく事を誓い合わせて頂く所存でございます 更には又九州で大きな地震が起き多くの方が被災し亡くなった方もおられましたこと実に残念でなりません 親心をしっかりと思案したすけ心を持って今出来るおたすけをさせて頂く所存でございます

何卒親神様には 皆の先を楽しみに今出来るおたすけの苦勞を厭わぬ誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚一層自由のご守護を賜り 次々と親心に触れたすけ一条を志す人が弥増してお望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早くお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されてきましたので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽4月24日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

ポカポカの春の一日を土筆採り

一本手折れば胞子の飛べり

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

雨催い軒の干し物ゆれもせず

ひとり土筆の袴取りおり

▽5月1日付「時報俳壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

初つばめ低く飛び来て雨の降り

▼『陽気』誌5月号「道柳」より転載。

▽秀 詠

・東悠◎ 田林美智子さん

この地球の万物育つ神の守護

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)



<婦人会>

○委員部長後継者講習会

日時 6月22日(水)

午前9時 受付、9時30分 開講

午後3時頃 閉講予定

場所 笠岡大教会

対象 委員部長後継者並びに内勤の後継者

参加御供 500円

内容 支部長おはなし、感話、お作法、女鳴物勉強、等

持参品 ハッピー、琴の爪(琴を勉強される方)

<少年会>

○少年会創立50周年 縦の伝道講習会

日時 5月21日(土) 祭典講話に替えて

講師 橋本武長先生(少年会本部委員)

○テッチャンシアター

日時 5月21日(土) 祭典終了後

<雅鶯会>

○雅楽奉仕者講習会

期間 6月5日(日)~6日(月)

会場 高屋分教会

*時間、内容等は後日雅鶯会員にご連絡いたします。

おやさとふしん青年会ひのきしん隊

「おやさとやかた完成その日まで」の思いで、教祖70年祭前から続けられている、『おやさとふしん青年会ひのきしん隊』。

毎年、各分会(各直属)毎に、入隊月が決まっており、笠岡分会(上原明勇委員長)の入隊月である6月が迫ってきている。

入隊人数心定めは、14人。笠岡分会では、この14人での入隊を目指して声かけをしてきたが、5月21日時点でまだ14人に到達しておらず、5月31日まで隊員を募集している。

入隊期間 6月1日から24日

入隊資格 16歳以上の男性

◆詳しくは、大教会・上原明勇委員長まで。

大教会だより

辞令

立教179年5月21日付

登用

幹部承事

上原明勇

承事

門脇元教

青年

上田隆之

教会指令

任命願

瑞雲 分教会

*前任

西村彦一

*新任

西村靖彦



西村靖彦氏

☆奉告祭

立教179年5月3日

立教179年4月26日承認

婦人会総会詰所受入ひのきしん

笠岡岡崎佳夫 神昭渡邊隆夫 稲倉田中丈博 照雲雑賀元生 甲井山田敏教 他に有志の方々、有難うございました。

本部食堂ひのきしん

自 立教179年5月1日 至 立教179年5月15日 福東藤井宣人

立教179年定期巡教

福山 大教会長様 高屋 大教会長様 神邊 吉岡 壽 島根 佐藤 道孝 久松 上原 繁道 鶴山 大教会奥様 弥高山 中村 邦義 陽備 吉岡 壽 摩耶 吉岡 壽 金浦 佐藤 道孝 興明 上原 繁道 ひろさと 中村 繁道 陶山 岡崎 真一



ゆとり教育、ゆとり生活、ゆとり社会「ゆとり」という言葉をよく耳にします。「ゆとり」とは何だろうかと調べてみると、「物事に余裕のあること」「窮屈でないこと」と書いてありました。先日ゆとり世代の若者が討論をしているテレビ番組を見ました。ゆとり教育、ゆとり社会の中で育った若い社員が上司に叱られる時『どうせお前は、ゆとり世代だから仕方ないな!』と一言で片づけられてしまう。

僕達は好きでゆとり社会で育ってきたわけじゃない。」と言っていました。確かに大人が行き過ぎた競争社会、詰り込み教育の反省から、「余裕、窮屈でないこと」に目を向けすぎ、事細かく指示を受けないと動けない、自分から進んで行動する事ができないゆとり世代を作ってしまったように思います。今は見直されてきていますが、学校は週休二日制であり、やたらと親が学校や子供の生活の中に入り過ぎていくように思います。面倒を見過ぎ! 何も思いつかず、原稿締め切りの迫る中「ゆとり」に付いて考えてみました。(は)

芳井上原繁道 吳照中島誠治 海松ヶ岡中村邦義 東悠谷内伸自 吸江大教会奥様 照陽大教会奥様 輝美濃中村剛 新山邑吉岡 壽 皆部中村 邦義 明石市中村 繁道 上原 岡崎 真一 府中市 岡崎 真一 笠岡 晴 錦備 美之郷 上原 繁道 神昭 佐藤 道孝 備中 大教会奥様 湯田原 大教会奥様 葦陽 吉岡 壽 油木 佐藤 道孝 驛家 大教会奥様 島中谷内伸自 服部 佐藤 道孝 東城 谷内 伸自